

# 戦後のテーマ史

## 1. 中東戦争

### <前史>

- 19世紀末以来の「シオニズム運動」(←ドレフュス事件)  
第一次世界大戦中、イギリスの二重外交(実は三枚舌外交)  
フサイン・マクマホン協定 ⇔ バルフォア宣言 (⇔サイクス・ピコ協定)
- 1930年代 ナチスによるユダヤ人迫害  
→英国委任統治領パレスチナに大量のユダヤ人が移住、アラブ人との摩擦

### <第1次中東戦争(1948-49) = パレスチナ戦争>

1947. 2 11/29 イギリス、委任統治終了とパレスチナ問題の国際連合委任を表明  
国連総会、パレスチナ分割決議可決
1948. 5/14 ユダヤ人国家 イスラエル 独立宣言(←同日、英の委任統治終了)  
. 5/15 アラブ連盟の対イスラエル侵攻、戦争開始  
(レバノン、シリア、トランスヨルダン、イラク、エジプト)  
→パレスチナ戦争(アラブ側の呼称)、イスラエル独立戦争
1949. 2~7 イスラエル優勢のうちに順次各国と停戦協定
- パレスチナの大部分がイスラエル領  
ガザ地区はエジプト領、ヨルダン川西岸地区はヨルダン領 } →現在の公的国境  
→アラブ人難民100万人発生(パレスチナ・アラブ人)
- エルサレムは、旧市街含む東部がヨルダン領、西部がイスラエル領  
中間を国連が監視する非武装中立地帯とする  
→「嘆きの壁」はヨルダン領のため、ユダヤ教徒の不満

### <エジプト革命>

1952. 7/23 エジプトで自由将校団による革命、ファールーク国王退位  
1953. 6/18 王政廃止、共和政宣言。エジプト共和国、初代大統領 ナギブ  
(ムハンマド・アリー朝滅亡)

※自由将校団……ナセル、サダトが結成。後から先輩格のナギブが加盟し団長になった。  
1954年、ナセル首相とナギブ大統領の対立 → ナセルがナギブを解任し実権掌握。

1956. 6 第2代大統領に ナセル 就任(〜70)  
アメリカの世界政策(1955 METO 結成)に反発  
主力産業や銀行を国有化するアラブ社会主義政策
- . 7/26 スエズ運河 国有化宣言  
↑ アスワン・ハイ・ダム 建設再開の費用獲得のため  
↳ 1952年に計画されたが革命で中断していた

## <第2次中東戦争(1956) = スエズ戦争>

- 1956. 10/29 イスラエル軍、突如エジプト領シナイ半島へ侵攻
- . 10/30 英・仏もスエズ運河地帯に進駐
- ↓
- . 10/31 米アイゼンハウアー大統領、英仏を支持せずと表明
- . 11/1 国連緊急総会開会。翌日、米提案の即時停戦案可決
- . 11/4 スエズ国連緊急軍(UNEF)設置。エジプト停戦受諾。翌日イスラエルも受諾。
- . 12/22 英・仏、スエズから完全撤退

※ 英・仏の国際的地位低下。“雪解け”＝米ソ2大国時代へ。  
しかし、同時進行でハンガリー事件も

## <アラブ民族主義>

- 1958. 2 エジプト・シリア合邦、アラブ連合共和国 結成（～61合邦解消）
- . 7 イラク革命、王政廃止、共和政へ。翌59年METO脱退。
- ” アメリカ、レバノン侵攻（←同国で反米運動）
- ” イギリス、ヨルダン侵攻（←イラク革命波及をおそれる）
- . 8 国連総会、アラブ10ヶ国の決議案採択 → 米・英の撤退
  
- 1964. 1 第1回アラブ首脳会議（於カイロ）
- . 5 パレスチナ解放機構（PLO） 結成……パレスチナ難民の代表機関

## <第3次中東戦争(1967)>

※ソ連からエジプトに対し「イスラエル軍、エジプト国境に集結」との誤報（わざと？）

- 1967. 5/15 エジプト、戒厳令。シナイ半島に軍を移動
  - . 5/16 エジプト、国連緊急軍の撤退要請 → 5/18 国連事務総長、これに同意
  - . 5/22 エジプト、ティラン海峡（アカバ湾出口）封鎖宣言
  - . 5/30 エジプト、ヨルダンと軍事同盟
  - . 6/1 イスラエル、挙国一致内閣（国防相ダヤン）  
米英＝イスラエル支持、ソ連＝アラブ諸国支持（冷戦構造下）
  - . 6/5 イスラエル軍、電撃戦開始。
- 占領地拡大 { シナイ半島、ガザ地区（エジプトから）  
ゴラン高原（シリアから）  
ヨルダン川西岸地区（ヨルダンから）を占領  
→新たな難民100万人発生  
国連安保理の停戦決議 → イスラエルが6日で圧勝（6日戦争）

※この戦争開始直後、アラブ諸国は対米・英断交。  
イラクなどはイスラエル支持国への石油輸出禁止（9月まで）

- ↓
- 1968. 3 アラブ石油輸出国機構（OAPEC）結成、本部クウェート

## <過激派の発生>

第3次中東戦争でのアラブ側敗北 → 過激派組織発生

1968.7 パレスチナ解放民族戦線 (PFLP)、イスラエル航空機ハイジャック

1970.9 PFLP による5機同時ハイジャック事件

1972.9 ミュンヘン・オリンピック選手村襲撃事件

過激派「黒い9月」による。イスラエルの選手・コーチ11名殺害

1969. 2 PLO 第3代議長 アラファト 就任 (～2004 死去)

ゲリラ組織ファタハを率いて1967年、PLOに加盟していた

1970. 9 ナセル急死。エジプト第3代大統領 サダト 就任

アラブ社会主義から自由経済へ転換

## <第4次中東戦争(1973)>

サダトがイスラエルに対し巻き返しを図る

1973. 8 サダト大統領、サウジアラビア訪問

. 9 エジプト、シリア、ヨルダン3国首脳会談

↓

10/6 エジプト・シリア両国軍、南北からイスラエルを挟撃し戦闘開始

⇕

(10月戦争)

10/13 イスラエル軍、スエズ運河を渡り巻き返し

10/23 停戦成立

結局、アラブ側は占領地奪回ならず

※この時、OAPECによる石油戦略発動、イスラエル支援国への輸出停止・制限

→第1次石油危機 (オイルショック)

## <エジプト・イスラエル和平へ>

1974. 11 国連総会、PLOに国連オブザーバー資格を付与する決議

1977. 11 サダト大統領、イスラエルを電撃訪問

1978. 9 キャンプ・デーヴィッド会談……米 カーター 大統領の仲介  
サダト大統領と ベギン 首相 (イスラエル) が会談

1979. 3 エジプト・イスラエル平和条約

→1982 イスラエルがエジプトにシナイ半島を返還

⇕

しかし、エジプトはアラブ諸国内で孤立

1981.10/6 サダト、イスラム原理主義者により暗殺。後任 ムバラク (～2011)

イスラエルは、1982.6 レバノン侵攻。PLO本部を同国から退去させる。

→PLOはチュニスへ

## <中東地域での様々な動き>

### ▶ イラン革命

1979. 2 ホメイニを指導者とするイスラム教シーア派勢力が  
パーレヴィ朝を倒し、**イラン・イスラム共和国** 建国
- 11 アメリカ大使館人質事件……元国王のアメリカ入国に反発  
→翌年まで解決できず、カーター大統領再選ならず、共和党レーガン当選

### ▶ アフガニスタン紛争(1979-89)

国王ザヒル・シャー(1933-73)、60年代から立憲制、民主化。→1973クーデタで王政廃止。

1978. 4 人民民主党のクーデタ。社会主義国家となる。  
⇔ ムジャヒディン(イスラム義勇兵)の武装蜂起。内戦勃発。

#### 1979. 12 ソ連軍、アフガニスタン侵攻

↑ イラン革命の影響でイスラム原理主義が飛び火することをおそれる  
↓ 翌年モスクワ五輪ボイコット約50国(米、日、西独、カナダ、中、イラン、パキスタン、サウジアラビアなど)

アメリカはムジャヒディンに武器・資金援助

↳ その中にはウサマ・ビン・ラディン(当時駐アフガニスタン大使)も

1989. 2 ソ連軍、アフガン撤退  
1992. 3 人民民主党政権崩壊。イスラム諸派による内紛。  
1996. 9 イスラム原理主義勢力 **タリバン**政権(2001.3 パーミヤンの石仏爆破)

### ▶ イラン・イラク戦争(1980-88)

1979. 7 イラク、サダム・フセイン大統領就任。  
イラクは国内にシーア派を多数抱えており、イラン革命の飛び火をおそれた。  
また以前からイランとは国境紛争もあった。
1980. 9 イラクがイランへ侵攻開始。しかし、イランの反撃でイラク劣勢に  
→イランと対立するアメリカ、イスラム革命波及をおそれるソ連ともイラク援助
1988. 8 戦争終結。→イラクが中東最大の軍事大国に  
アメリカとの関係も良好で、フセインを増長させる

### ▶ イラクのクウェート侵攻(1990)～湾岸戦争(1991)

- 1990年1月、フセイン大統領、石油価格引き上げを諸国に呼びかけ。  
→サウジアラビアは応じたが、クウェートは石油の低価格増産続行。
1990. 8/2 イラク、クウェート侵攻  
フセインは自らのクウェート撤退を、イスラエルの占領地からの撤退と  
リンケージさせて、国際的批難に抵抗
1991. 1/17 アメリカ軍を中心とする多国籍軍が対イラク軍事作戦開始(**湾岸戦争**)  
2/24 アメリカ軍による地上作戦開始。4/6 イラク停戦受諾

※ビン・ラディンは、湾岸戦争中、聖地を擁するサウジアラビアが米軍に基地を提供したことに対し反発。  
1993.2/26 イスラム原理主義テロ組織アルカイダによる世界貿易センター爆破事件

## <中東和平合意>

1991. 10 中東和平会議、マドリードで開催・・・米・ソ連の主催  
1989.12 マルタ会談（ブッシュ、ゴルバチョフ）で冷戦終結
- 1992 イスラエルで和平派の労働党ラビン政権圧勝  
米、民主党クリントンが大統領当選
1993. 9 中東和平合意・・・イスラエル・PLO 相互承認、パレスチナ暫定自治合意
1994. 5 パレスチナ自治政府（ヨルダン川西岸、ガザ地区）、大統領アラファト  
→同年 アラファト、イスラエルのラビン首相・ベレス外相がノーベル平和賞受賞  
しかし1995 和平反対のイスラエル人青年によりラビン暗殺
2005. 9 イスラエルは、ガザ地区・ヨルダン川西岸地区の一部から撤退  
しかしパレスチナで強硬派が政権を握ると、06年イスラエルはガザ地区侵攻、和平は頓挫

## <9・11テロ(2001)とその後>

2001年9月11日 アメリカ同時多発テロ

イスラム原理主義組織アルカイダによる（指導者ウサマ・ビン・ラディン）  
NY 世界貿易センタービル、および国防総省にハイジャック機が突っ込む。



米ブッシュ大統領(Jr、共和党、2001-09)

2001.10 アフガニスタン攻撃

英・仏・独・カナダらと集団的自衛権発動という形で。（国際法的に問題あり）  
アルカイダをかくまうイスラム原理主義タリバン政権崩壊さす。  
→ 2001.12 アフガニスタン、大統領カルザイ(-2014)政権成立

2002年初、ブッシュ大統領は一般教書演説において、イラク・イラン・北朝鮮を名指して、  
大量破壊兵器を保有するテロ支援国家「悪の枢軸」と批難。  
特にイラクに対しては、政府関連施設などの査察を繰り返し要求。  
また、ビン・ラディンは湾岸戦争を機に反米的になった、ということで  
フセイン政権とアルカイダのつながりがある、とされていた。

2003.3 イラク戦争・・・アメリカが攻撃開始、英ブレア政権もともに参戦  
12月 フセイン大統領拘束（裁判を経て2006.12死刑執行）

イラク・・・2005新憲法成立。2006.5正式な新政府成立（マリキ首相）

※ 一連のアメリカの軍事行動に、日本の小泉内閣は時限立法で自衛隊を派遣して支援  
テロ対策特別措置法(2001)、イラク復興特別措置法(2003)

※ しかし、フセイン政権が大量破壊兵器を保持しておらず、  
またアルカイダとのつながりも証明できなかったことが後に判明。

2011.5 米オバマ政権、パキスタンで海軍特殊部隊によりビン・ラディン殺害

## <アラブの春(2011)とその後>

2010. 12 チュニジアで“ジャスミン革命”

—青年の焼身自殺事件に端を発する反政府デモが国内全土に拡大。  
→ 2011. 1/14 ベンアリ大統領 (1987-) がサウジアラビアに亡命。

2011. 1/25 エジプトでも反政府デモ。2/11 ムバラク大統領辞任。

翌年ムバラクは終身刑判決を受けるが、その後、エジプトで軍が実権を握ると、  
2014年に再審の末、公判棄却で事実上無罪。

2011. 2/17 リビアでもデモ。8/23 カダフィ政権 (1969-) 崩壊。

混乱の中で10月カダフィ殺害される。

## ▶ シリア内戦

2011年1月から、「アラブの春」の一環で反政府運動

アサド大統領(2000-)政府軍と、反政府勢力との内乱へ

↓

ここへ国外からイスラム原理主義勢力が入り込む

イラクのイスラム国 (ISI) が、シリアの過激派アル・ヌスラ戦線と合体

→ ISIL (Islamic State in Iraq and the Levant、LevantはSyriaのことなのでISISとも)

2014. 6 ISIL がカリフ制イスラム国家樹立宣言。IS (Islamic State、イスラム国)

→泥沼の内戦を逃れ、ヨーロッパへ大量の難民が流れ込んでいる (2015年現在)